

めぐみイエス・キリスト教会

2019年10月27日(日)第四主日礼拝
週報「通算第478号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年10月27日 第四主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382
- 【交読文】 No.44 詩篇第139篇抜粋 p. 913
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.8「神様の愛の言葉」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章1節～10節(新約p. 203下段)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《ペテロとヨハネの場合》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖餐式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

●ポイント1.ゲッセマネの後

※ヨハネの福音書18章15節～16節「大祭司の邸宅へ」(新約p.199上段)

18:15 シモン・ペテロともうひとりの弟子は、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いで、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。

18:16 しかし、ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いである、もうひとりの弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを連れてはいった。

※ルカの福音書22章7節～8節「過越の食事の準備に」(新約p.148上段)

22:7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。

22:8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「私たちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」

●ポイント2. 主イエスの埋葬

※マルコの福音書15章46節～47節「主の納められる所」(新約p.94上段)

15:46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。

15:47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

●ポイント3. ペテロとヨハネが「園の墓」から戻った後に

※ルカの福音書24章33節～34節「主のペテロへの出現」(新約p.156)

24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、

24:34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。

※ヨハネの福音書20章28節～29節「トマスへの言葉」(新約p.205上段)

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

※ヨハネの福音書21章20節～22節「ペテロとヨハネの場合」(新約p.206)

21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。

21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「私の来るまで彼が生きながらえるのを私が望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、私に従いなさい。」

◎先週のメッセージの概要【アリマタヤのヨセフとニコデモ】

《今日は、主イエス様の埋葬の場面からです。ここに登場します「アリマタヤのヨセフ」については、三つの共観福音書のすべてに書き記されています。しかしニコデモのことは、ヨハネだけです。ここにも使徒ヨハネが、「第四福音書」を執筆しなければならなかった理由が計り知れると言うものです。

それでは、まずアリマタヤのヨセフについて考えて見ましょう。

マタイによりますと、彼は「金持ち」であったことが分かります。また、ルカによりますと、『彼はアリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでおり、議員のひとりで、りっぱな、正しい人であり、議員たちの計画や行動には同意しなかった。』ことが分かります。そしてマルコは、『すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、有力な議員であったアリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトの所に行き、イエスの体の下げ渡しを願った。ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、確かめてから、イエスの体をヨセフに与えた。』と、とても大切なことを書き記しています。

本来、罪人の処刑が行なわれましたら、その死体は野ざらしにするか、はたまた共同墓地に葬るかのどちらかでした。そこへ有力な議員であるアリマタヤのヨセフとニコデモがやって来ます。ヨハネによりますと、『前に、夜イエスの所に来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。』と、書かれています。

イエス様は、アリマタヤのヨセフの新しい「園の墓」に葬られるのです。当時園の墓に葬られることが許されたのは「王」だけでした。これは「犯罪人」ではなく、「王」として葬られることを意味します。『ユダヤ人の王ナザレのイエス』イエス様を十字架から取り降ろしたのは、アリマタヤのヨセフとニコデモです。

この意味することは何でしょうか。それは、神様は私たち人間の手を借りて共に、神の御わざを成されるということです。この時ふたりは、地位も名誉も捨てて、主の弟子であることを公にします。福音は恥ではありません。クリスチャンであることは、大いなる特権であり、また大いなる恵みなのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月3日です。通常通りに行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、11月6日(水)に行ないます。10月30日(水)はお休みします。